

経営比較分析表（令和3年度決算）

岐阜県 池田町

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
1	-	-	-
その他発電所数	料金契約終了年月日	F I T適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和19年 3月20日 宮地清流発電所	令和19年 3月20日 宮地清流発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
中部電力パワーグリッド株式会社 大垣営業所	-		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであることを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	H29	H30	R01	R02	R03
水力発電	-	187	185	263	211
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	-	-	-	-	-
合計	-	187	185	263	211

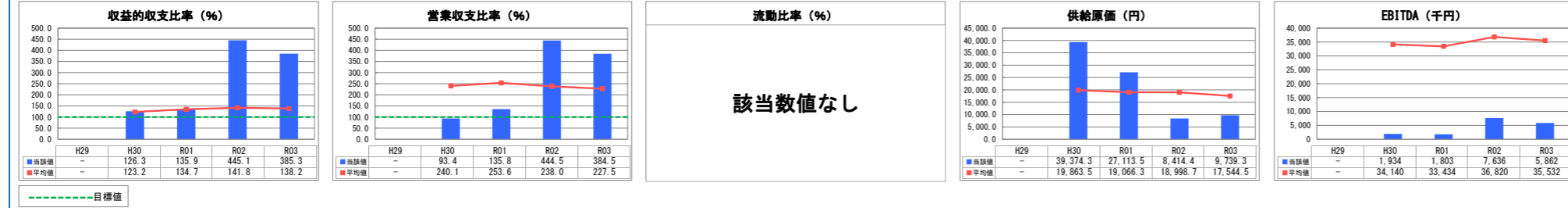
年間電灯電力量収入（千円）	F I T以外	F I T	合計
	-	7,183	7,183

剰余金の用途について（具体的な使用実績事業を記入してください）
 小水力発電事業により生じた利益は、将来の施設更新及び大規模修繕基金の積立及び農業集落排水事業への繰出金（処理施設の電気代）に充てている。
 ・小水力発電事業基金積立金：5,152千円
 ・農業集落排水事業特別会計への繰出金（処理施設の電気代）：710千円

分析欄

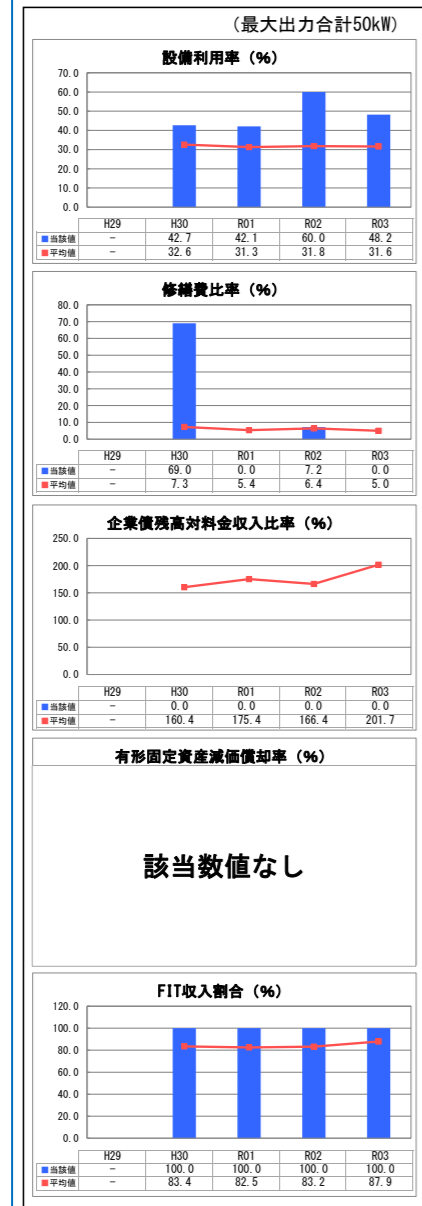
1. 経営の状況について
 収益的収支比率は100%を上回り、収支は黒字である。営業収支比率においても100%を上回り、営業収支は黒字である。昨年度と比較すると、収益的収支比率、営業収支比率ともに約0.9倍となっている。これは降水量の減少に伴い、料金収入が減少したことによるものである。供給原価は平均値の約0.6倍であり、平均値と比較すると効率的な売電ができてきているといえる。EBITDAは前年度の約0.8倍となっているが、収益の減少に伴うものである。

1. 経営の状況

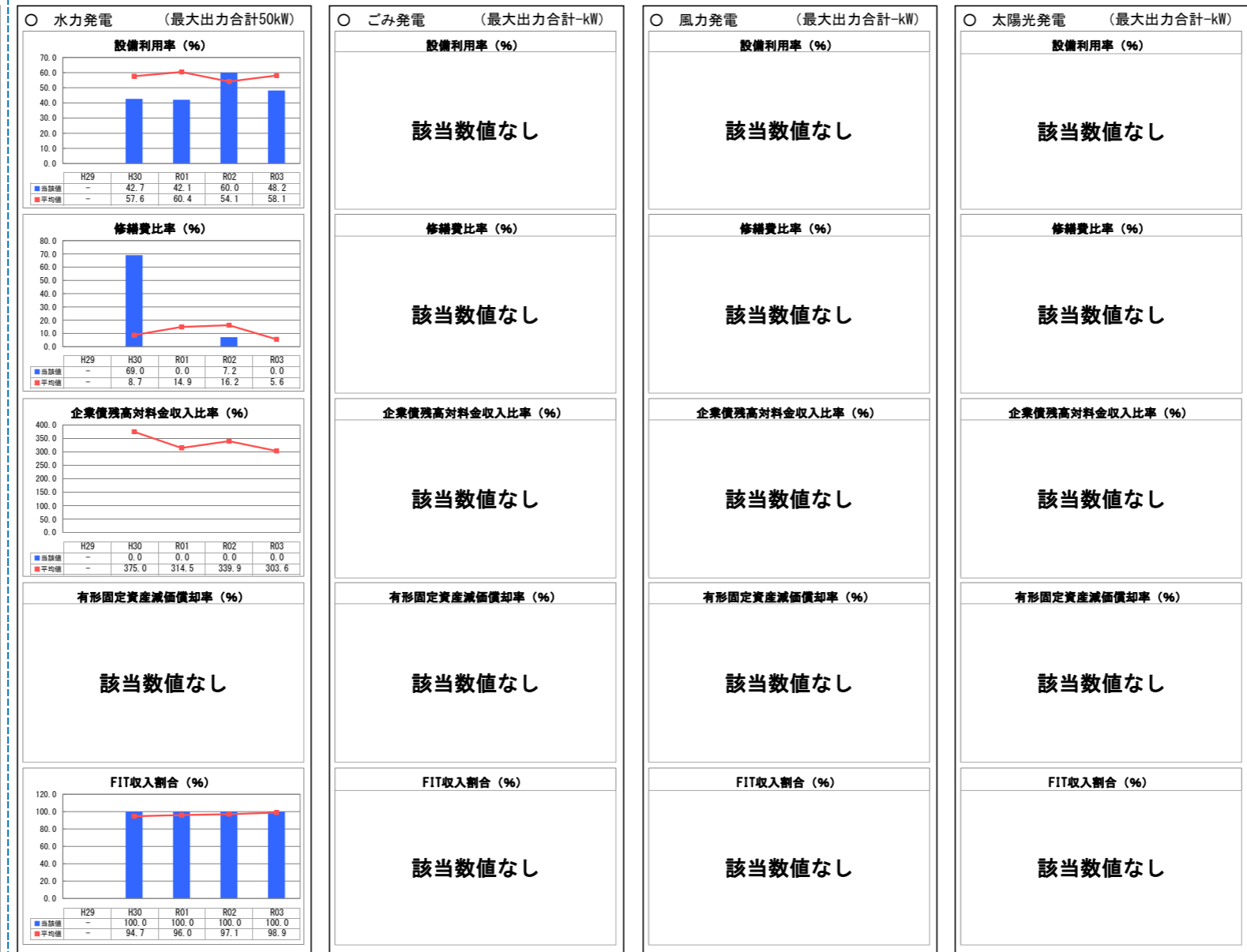


2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



2. 経営のリスクについて

設備利用率は48.2%で、発電型式別設備利用率の平均値である58.1%を下回っており、昨年度と比較して約0.8倍となっている。これは降水量の減少など天候の影響に左右されるものであるが、取水施設等の維持管理を徹底することにより安定した発電量を確保し、設備利用率の改善を図る。修繕費比率は0%であり、令和3年度において修繕は発生しなかったが、各設備の法定耐用年数に応じて、更新を行う。FIT収入割合については、昨年度同様100%である。

全体総括

経営の状況について昨年度と比較すると数値が下がっているが、平均値を上回っている。更に維持管理の徹底をし、発電量の向上を図る。令和3年度において修繕は発生しなかったが、各設備の法定耐用年数に応じて、更新を行う。そのため基金積立を計画的に行っていく。

※平成29年度から令和3年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債務高対料金収入比率、FIT収入割合については、令和3年度の団体数を基に平均値を算出しています。